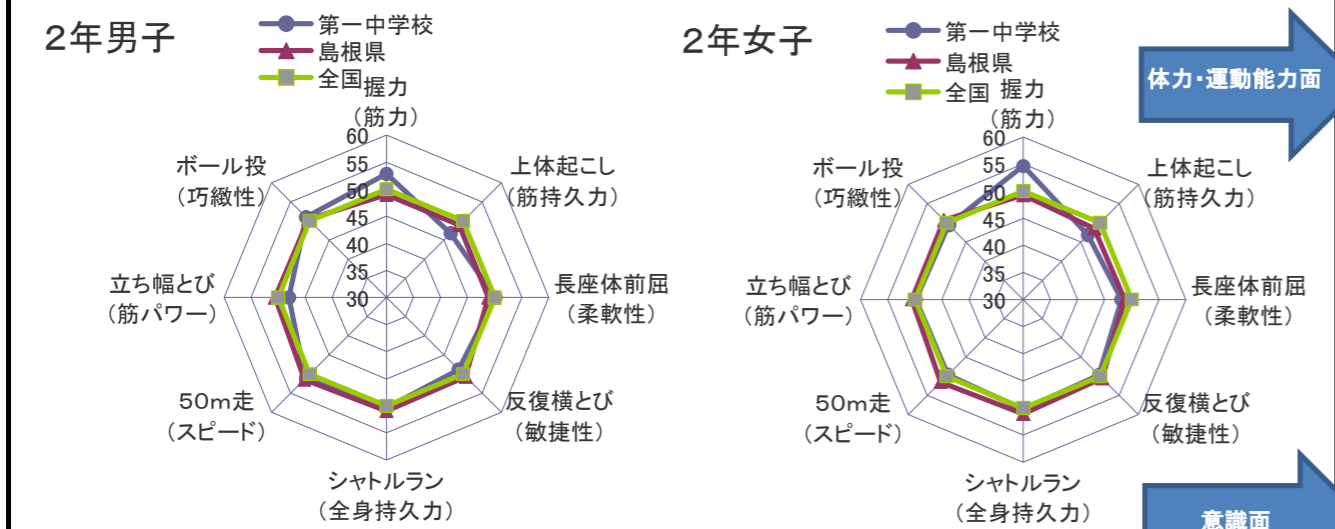
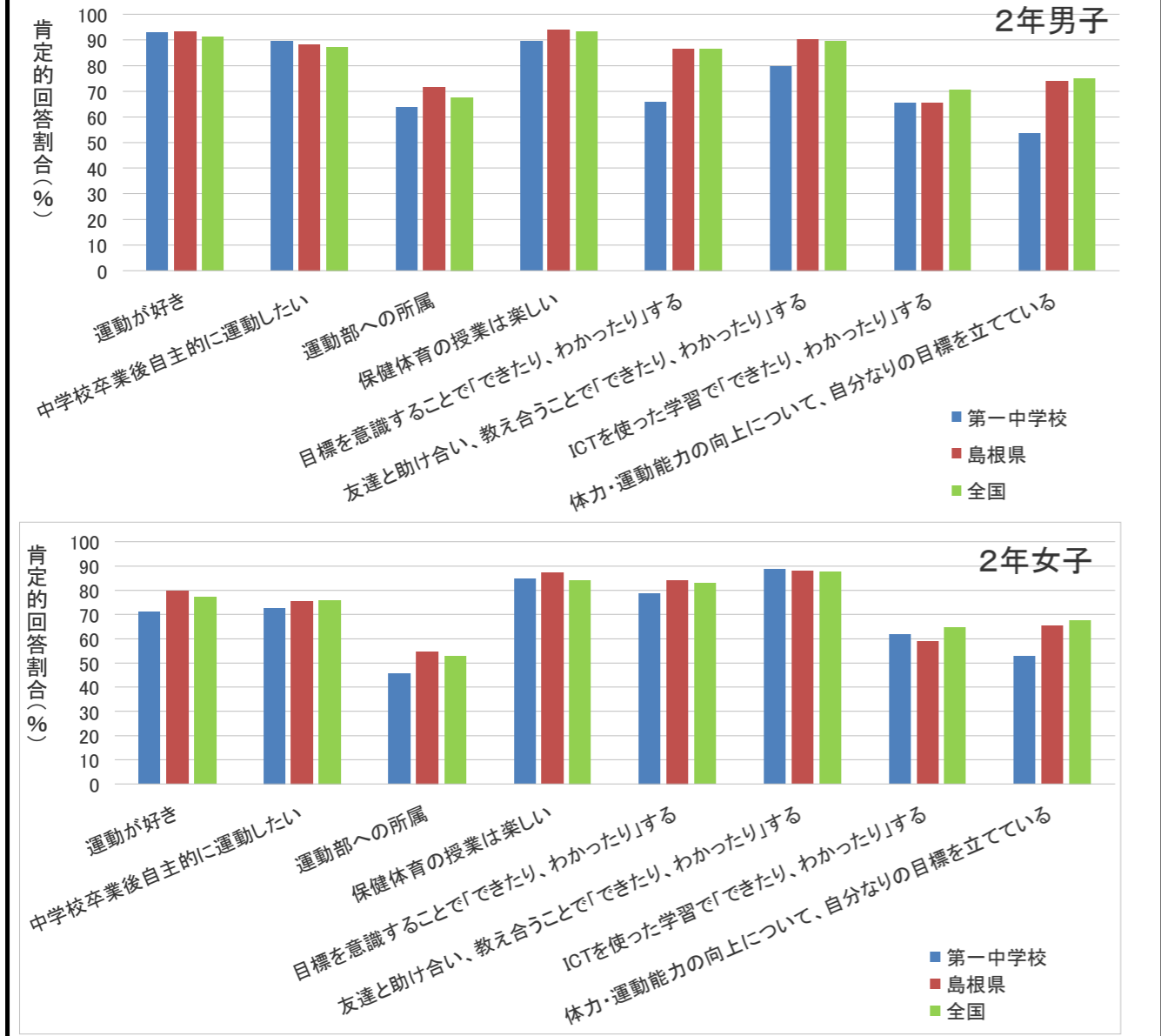


(1) 令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査＜意識調査＞の結果  
(体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)



(2) 調査結果の分析

① 体力・運動能力面 全国(偏差値)との比較

	握力(筋力)	上体起こし(筋持久力)	長座体前屈(柔軟性)	反復横とび(敏捷性)	シャトルラン(全身持久力)	50m走(スピード)	立ち幅とび(筋パワー)	ボール投(巧緻性)
男子	2.8	-3.2	0.1	-1.2	0.3	1.1	-2.0	1.0
女子	4.6	-3.2	-1.9	-0.3	0.3	-0.4	-0.2	-0.6

Legend: [-5p以上] (弱み), [-5~-2p], [-2~0p], [0~2p], [2~5p], [5p以上] (強み)

② 意識面 全国(割合%)との比較

	運動が好き	中学校卒業後自主的に運動したい	運動部への所属	保健体育の授業は楽しい	目標を意識することで「できたり、わかったり」する	友達と助け合い、教え合うことで「できたり、わかったり」する	ICTを使った学習で「できたり、わかったり」する	体力・運動能力の向上について、自分なりの目標を立てている
男子	1.6	2.0	-4.0	-3.6	-20.7	-9.6	-5.2	-21.3
女子	-6.0	-3.2	-7.1	0.5	-4.0	1.0	-2.9	-14.8

Legend: [-7%以上] (弱み), [-7~-3%], [-3~0%], [0~3%], [3~7%], [7%以上] (強み)

(3) 令和8年度の方針【学校全体での取組】

令和7年度調査結果から、全国値と比較して数値が下回った項目について、以下の取組を行うことで向上を図る。また、調査種目の運動自体に慣れていない生徒もいると想定されるため、日々の体育の授業の中で調査種目を取り入れた準備運動等を実施していく。

女子の数値が全国平均と比較して低いことから、体育の授業において、女子の取組に軸をおいた内容、働きかけを行う。具体的には、結果を得点化し、自身の伸びを少しでも感じられ、それが取り組む意欲につながるよう、評価していく。

意識調査において、運動に対する肯定回答は低くはないが、目標をもって取り組んだり、運動能力の向上を意識した取組ができていなかったりする現状がある。そのため、目的意識をもつ、友達と協力して取り組む、ICTを活用することが結果的に運動能力の向上につながるということを理解させる。

- ①上体起こし(筋持久力)・・・体育の授業前の準備運動に上体起こしの運動を取り入れ、運動に慣れることと筋持久力の向上を狙う。
- ②反復横跳び(敏捷性)・・・体育の授業前の準備運動に上体起こしの運動を取り入れ、運動に慣れることと筋持久力の向上を狙う。
- ③立ち幅跳び(筋パワー)・・・陸上、器械運動、体づくり運動の授業において、立ち幅跳び、立ち三段跳びの運動を取り入れ、数値の向上を狙う。
- ④シャトルラン(全身持久力)・・・令和7年度に定期的にシャトルランに取り組んだことが全身持久力の向上につながっていると考え、8年度も引き続き、定期的な取組を継続していく。
- ⑤タブレット内で自己の調査項目を管理することで数値を可視化して自身の能力の伸びを分かりやすくする。
- ⑥調査項目をランキング化することで意欲的な取組につなげる。
- ⑦体育理論、保健の内容で、運動能力の向上が健康維持増進、生涯スポーツへの取組につながっていく内容を盛り込む。
- ⑧運動(体力テストの種目も含む)の仕方やポイントが確認できるような教材をクラウド上に準備し、活用できるようにする。